



砂沼を核に公民連携のまちづくり

下妻市長
菊池 博氏

筑波銀行下妻営業部長
小林 英将

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県下妻市です。筑波銀行下妻営業部長 小林 英将が下妻市長 菊池 博氏にお話を伺いました。

市政運営で力を入れていること

2022年4月から取り組んでいる第2期目の市政運営は1年が経過し、第1期目に実現を志した政策の芽が出てきていると自負しています。

まず、特色ある教育を推進するため、「英語教育のまちづくり」を合言葉に、英語教育に力を入れています。市立小中学校12校にALT（外国語指導助手）を配置するとともに、英語を母国語とする職員を採用するなど生きた英語に触れる機会や体験の場を設定し、子どもたちの主体的にコミュニケーションを図る能力を育てています。子どもたちが英語で先生や友達と楽しそうにやり取りする様子を視察し、そのレベルの高さに舌を巻きました。また、英検受験料の半額補助により受験を推進し、合格率が上がっており、ここにも成果を感じています。

次に、2023年4月にデジタル推進室をDX推進課へ格上げし、DX推進に強力に取り組みます。事務の効率化に加え、市民生活の利便性の向上を図っていきます。市公式LINEを活用するスマホ市役所により、「待たない・書かない・行かない」市役所の実現を目指します。さらに、国と連携して地方

公共団体の情報システムの標準化も進めます。

また、安心して暮らせるまちづくりを進めるため、防災・防犯力を強化します。自然災害への対応や日々の防犯に取り組む自主防災組織の結成と活動を支援します。例えば、防災訓練の実施や防犯カメラ設置のための補助金の交付などを実施します。

公共交通網の整備では、下妻市コミュニティバス「シモンちゃんバス」の運行、本市と隣接する筑西市のJR川島駅を結ぶ路線バス「筑西・下妻広域連携バス」の実証実験を実施しています。さらに、高齢者の移動を支援するためタクシー利用に係る費用の一部助成を拡充します。

市役所新庁舎の建築

1969（昭和44）年に建築された市役所本庁舎は、老朽化や耐震性不足、バリアフリー未対応など様々な問題から、2023年5月8日より隣接地に建築中の新庁舎に移転します。

新庁舎は、建物自体の断熱性能を高めるほか、高効率な空調設備やLED照明設備、熱損失が少ない換気設備等の採用で省エネを図るとともに、太陽光発電によるエネルギーを作ることによって、一次エ



エネルギー消費量の78%の削減ができる建築物であると評価され、茨城県内の庁舎としては初めて「NearlyZEB」認証を取得しました。さらに、建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）の「最高ランク☆☆☆☆☆」5つ星も獲得しました。

産業振興

しもつま鯨工業団地の躍進

市内には9つの工業団地があり、全ての工業団地が完売しています。

2018年度に造成が完了した「しもつま鯨工業団地」（鯨地内）は、約31ヘクタール、3区画を販売しましたが、造成完了から約1年半で全区画が完売しました。世界的な高級化粧品メーカーであるエスティローダーカンパニーズや食品大手のフジパンなどが進出し、まもなく本格的に操業が開始されます。エスティローダーカンパニーズではグループ日本法人のサプライチェーンに関わる本社機能の一部も設置されます。

本工業団地には製造業の企業を誘致することにこだわりました。製造業は従業員が多いため、雇用の増加が期待できますし、設備投資額も大きいからです。優良な企業が本市に進出し、新たな雇用や税収が増えることにより、地域住民の生活や住民サービスが安定し、UターンやIターンによる人口増加も見込めます。優良な企業は給与や福利厚生も充実していて従業員が長く勤務する傾向があり、雇用の安定も期待できます。安定した雇用と地域経済の活力を本市のまちづくりに生かし、「住みたいまち」「選ばれるまち」になることにつながっていきたいと考えています。本工業団地操業による雇用創出は1,500人を見込んでおり、期待が高まります。さらに、本工業団地の整備により、大手ビジネスホテルチェーンルートインの進出が決定するといった波及効果も現れており、今後も市全体が活性化することを期待しています。

しもつま中央工業団地の整備

本市10番目の新たな工業団地の整備にも動き出しています。古沢・袋畑地区に整備する予定の約

37ヘクタールの「しもつま中央工業団地」です。

圏央道常総インターチェンジから約15分と近く、国道294号と国道125号が交差する位置にあり、進出企業の利便性は非常に高く、しもつま鯨工業団地と同様、大手製造業の早期誘致を実現したいと考えています。ここにも1,000人以上の雇用創出を期待しています。

一般財団法人下妻市開発公社の役割

一般財団法人下妻市開発公社は1969（昭和44）年の設立後、現在まで多くの実績とノウハウを蓄積し、工業用地開発や企業誘致に高い能力を発揮しています。茨城県内市町村の工業団地は、茨城県や茨城県開発公社が開発、分譲するものが多く、市の開発公社が行っている事例は珍しいといえます。本公社が一貫体制で開発から誘致を行うことで市の判断で企業要望にスピード対応できるというメリットがあります。現在整備を進めている、しもつま中央工業団地においてもスピード感を持って対応していきたいと考えています。

また、本公社では誘致した企業の従業員向けに「下妻ってこんなまち」という小冊子を作成し、本市の魅力をPRしたり、地元不動産業者と連携し賃貸住宅の物件を紹介したりしています。

観光振興

本市は筑波山のふもとに位置し、東に小貝川、西に鬼怒川が流れ、市のほぼ中心に周囲約6キロメートルの池「砂沼」を有しています。まちなかに大きな水辺があることは珍しく、春には1,000本の桜の観賞や、1年を通してウォーキング、ジョギング、サイクリングなどが楽しめる憩いの場になっており、本市はこの砂沼を中心としたエリア全体のまちづくりを推進しています。

また、砂沼湖畔の「観光交流センターさん歩の駅サン・SUNさぬま」、まちなかの屋根付き多目的広場「下妻市にぎわい広場Waiwaiドームしもつま」など憩いの場、交流の場として整備された施設の効果促進を図る取り組みが重要となります。

砂沼戦略プラットフォーム

下妻市公民連携まちづくり砂沼戦略プラットフォームは、砂沼を中心に「下妻らしい豊かな暮らし」を体現・実現し続けるために、公共、民間のさまざまな立場の人々がゆるやかにつながり、分野や立場、世代を超えて協働していくことを目的とするものです。



公民連携による砂沼戦略は、民間の人々が行政の補助金に依存せず、自由な発想により事業を行い、稼ぎ、お金を回して自走＝継続するといった地域経済の好循環を目指しています。また、現在、まちづくり市民グループ「しもつま3高」、一般社団法人下妻家守舎などの団体や有志により、カフェやレストランの運営、イベントの開催など多岐にわたる活動が展開されています。

本市は砂沼戦略のプレイヤーとその活動をSNSを活用した市公式まちメディア「サヌマー」で発信しています。この登録者数が本市の人口の4万人を超え、「バーチャル下妻市」のような位置づけとなり、サヌマーをきっかけに下妻ファンを増やし、関係人口や交流人口の増加を図ります。

農業振興

下妻の梨 ～攻めの農業で「選ばれる産地」に～

本市は、水と肥沃な土地に恵まれ古くより農業が盛んです。江戸時代中期には農業用のため池として砂沼が整備されたことから、農業が盛んだったことがわかります。特産は、米、豚肉、梨、ぶどう、スイカ、メロン、きゅうり、ネギなどです。

特に、梨については、下妻市果樹組合連合会が独自ブランドの開発や茨城県オリジナル品種の導入、海外輸出など先進的な「攻めの農業戦略」を展開しています。その成果が評価され、2020年3月には「第49回日本農業賞」（日本放送協会・全国農業協同組合中央会・都道府県農業協同組合中央会主催）集団組織の部で大賞を受賞しています。

独自ブランドとしては、幸水梨の収穫を10日ほど遅らせ、摘果により厳選された果実を樹上で十分に熟させ、梨本来の高い糖度と風味をもった食味重視の「下妻甘熟梨」、県内で初めて導入した梨選果用光センサーで高糖度の梨を選別した「輝」があり、ともに高い評価を得ています。

また、2022年10月には茨城県オリジナル品種「恵水」が「第1回全国梨選手権」（日本ソムリエ協会主催）で最高金賞を受賞し、日本の梨産地をリードする実績を上げています。

梨の輸出には2013年から取り組み、現在ではアメリカ（LA、ハワイ）やベトナム、香港、シンガポール、マレーシア等に輸出し、海外からも高い評価を得て「下妻といえば梨、梨といえば下妻」と言われています。

担い手確保と販路確保に行政ができること

農業は担い手の減少が全国的な課題で、本市も例外ではありません。先人が築きあげてきた農業を守り、発展させるために、農業に興味のある人を呼び込み、増やしていく必要があります。

そこで、株式会社クボタと連携協定を締結し、トラクタを1時間単位・低料金で利用できる農機シェアリング事業を開始し、新規就農をしやすい環境づくりに取り組んでいます。

また、2023年2月には下妻市果樹組合連合会と連携し就農フェアへ出展し、新規就農者の発掘に努めるとともに、2023年4月には新規就農希望者を地域おこし協力隊として委嘱し、本市の農業の担い手を育成していく予定です。農業を始めたい人が「下妻市で農業を始めれば安心だ」と思ってもらえるよう、今後も積極的に新規就農対策に取り組んでいきます。

さらに、生産者がたゆまぬ努力を重ねて栽培した農産物を付加価値のある商品として販売する販路の確保・拡大も重要です。本市の農産物が市場や消費者から評価され、販路を確立し、より高く売れることで、農家の収入が増加し、後継者を確保・育成することができます。

コロナ禍前は、JA常総ひかりとタイアップしたトップセールスを展開しており、国内は大田市場や大型商業施設等で、海外はアメリカ・ベトナム・マレーシア等を訪問し、本市の米・梨・メロンの素晴らしさをPRしてきました。コロナ禍の収束を見越し、市場開拓の必要性を重く受け止め、トップセールスを通して全力で本市の農産物をPRし、販路拡大を強力にサポートしていきます。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行には、地域の金融機関として、親しみと信頼を寄せています。筑波銀行と本市は「下妻市の地域振興に関する協定」を締結していることもあって、日頃より本市の地域経済の活性化および地方創生に協力していただき、感謝しています。

今後も、地域密着型の銀行として、本市との連携を継続していただくことを期待しています。

（取材日：2023年2月21日）



わがまちの道の駅 ー下妻市ー

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

道の駅しもつま

道の駅しもつまは、下妻市内を縦断する国道294号沿いに位置し、3階建てのお城のような外観が目印です。2000年9月に茨城県内6番目の道の駅として開業しました。2015年9月に、改修を経てリニューアルオープンし、道の駅しもつま「第2章」とも呼ぶべきお洒落・モダン・こだわりの食の空間へ生まれ変わりました。室内は外観からは想像もつかないお洒落でモダンな空間で、地元の新鮮・出来立て・こだわりの美味しいもので埋め尽くされ、まるで「しもつまの食のテーマパーク」です。他の道の駅にはない当駅の魅力の一部をお知らせします。

施設概要

住所	茨城県下妻市数須140	
電話	0296 - 30 - 5294	
開館時間	9:00 ~ 18:00	
	年中無休	
駐車場	大型	53台
	普通車	71台
	身障者用	1台

出来立ての美味しさを食卓にお届けする2つの工場

納豆工場 しもつま納豆「福よ来い」

当駅は、全国の道の駅でも珍しい納豆工場を併設しています。下妻産大豆を使用したしもつま納豆「福よ来い」は普段の食事でおいしく召し上がっていただけるのはもちろん、ご贈答にも大変喜ばれます。工場はガラス越しに見学可能で、月曜日・水曜日・金曜日の午前中は製造の様子も見られます（無料）。



しもつま納豆「福よ来い」



納豆製造の様子

ベーカリーしもんぱん

お洒落な空間に種類の豊富なパンやサンドイッチ・スイーツを取りそろえ、お手頃価格で販売しています。毎月の季節限定パンも魅力の一つです。「下妻プレミアムプリン」は、下妻市産の卵「紅プレミアム」を使用し、メディアにも取り上げられ、おいしいと話題になったプリンです。



ベーカリーしもんぱん



下妻プレミアムプリン

全国のおいしいものをご紹介します

下妻市産の新鮮な野菜、茨城の銘菓・銘酒はもちろん、地域の方に召し上がっていただきたい全国のおいしいものをご紹介します。関東地方初出店の京都の漬物「京つけもの富川」、「とようけ屋山本」の京とうふと京あげ、北海道のナチュラルブランド「ノースファームストック」のジャムやオイル漬け、パスタソースなどを取りそろえています。



ノースファームストック オイル漬け



パスタソース



京つけもの富川



ゆず大根



京しば漬



とようけ屋山本



京あげ